

Q7 市街地や住宅地にも基地があるのですか。

A

沖縄本島中南部都市圏には、県民の8割以上(約123万人)が暮らし、その面積は北九州市、人口は広島市、人口密度は神戸市と同じ水準にあり、政令指定都市に匹敵する都市圏となっています。

中南部都市圏の米軍基地が存在する9市町村には、市街地を分断する形で約6,562haもの米軍基地が存在しており、その割合は当該市町村面積の約22.4%にもなります。たとえば、「世界一危険」とも言われる普天間飛行場も、そのような中南部都市圏の宜野湾市に所在し、市域面積の約24%を占めています。

米軍基地面積の割合

	面積 (ha)	米軍基地面積 (ha)	割合
沖縄県全体	228,211	18,668	8.2%
沖縄本島	120,844	17,631	14.4%
中南部 米軍基地所在9市町村	29,330	6,562	22.4%

中南部都市圏の面積、人口、人口密度

	面積 (km ²)	人口 (人)	人口密度 (人/km ²)
沖縄県中南部都市圏 (米軍基地を除く)	483.5 (417.88)	1,228,363	2,541 (2,940)
北九州市	492.5	913,557	1,855
広島市	906.69	1,173,543	1,294
神戸市	556.93	1,493,543	2,682

※1 基地面積、人口、市町村等面積は令和7年1月1日現在。

このような米軍基地の存在は、長期にわたり望ましい都市形成、交通体系の構築、産業・機能の集積などの地域振興を実現していく上で大きな障害となっています。

在日米軍再編においては、宜野湾市の普天間飛行場や浦添市の牧港補給地区など嘉手納飛行場より南の施設・区域の返還が、日米両政府により合意されています。

米軍基地が返還されることで、跡地の有効活用が可能になり、沖縄全体の今後の振興・発展につながっていくことが期待されています。(Q18参照)



普天間飛行場は、宜野湾市のほぼ中央にあり、同市を東西に分断している。

▲普天間飛行場上空写真

中南部都市圏の主な米軍基地の状況

凡 例

陸 軍	空 軍
海 軍	人口集中地域
海 兵 隊	

沖縄本島

※色塗り部分は米軍基地所在市町村

- 読谷村
- 嘉手納町
- 北谷町
- 宜野湾市
- 浦添市
- 那覇市
- 沖縄市
- うるま市
- 北中城村

トリー通信施設 (189.5ha)

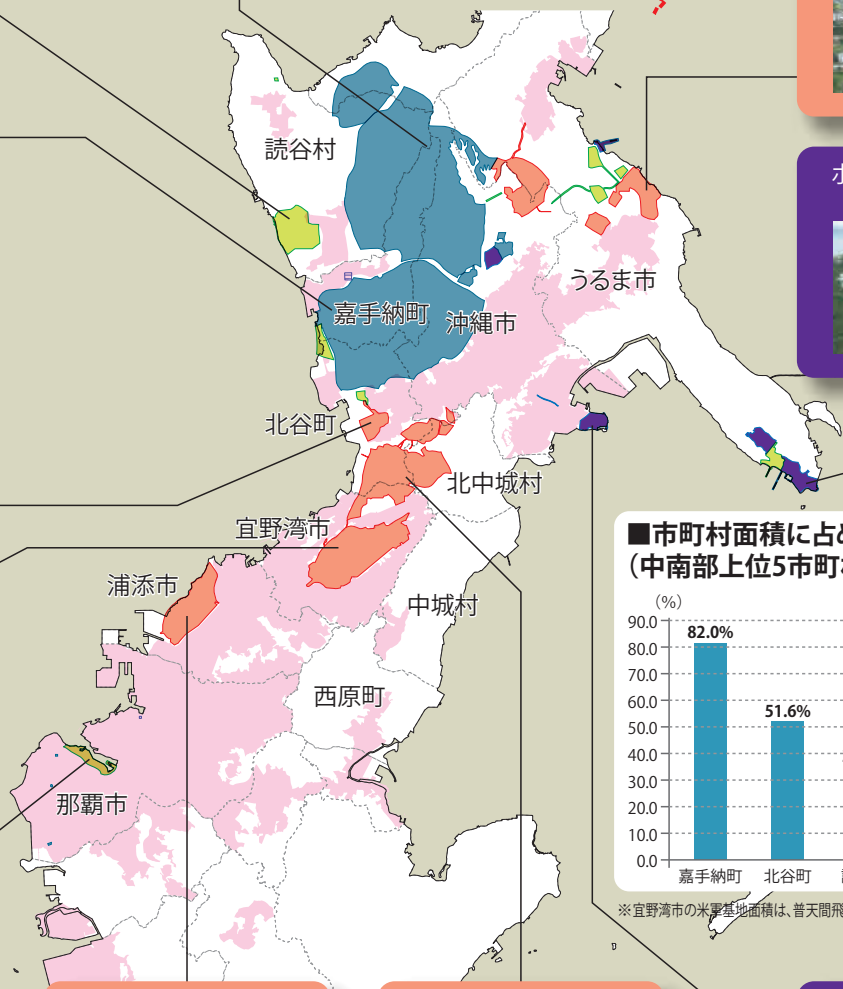
嘉手納弾薬庫地区 (2,627.6ha)

キャンプ・コートニー (133.9ha)

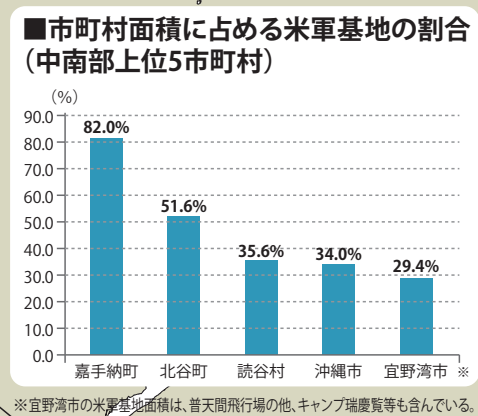
嘉手納飛行場 (1,985.7ha)

ホワイト・ビーチ地区 (156.8ha)

キャンプ桑江 (67.6ha)



普天間飛行場 (475.8ha)



那覇港湾施設 (55.9ha)

牧港補給地区 (267.5ha)

キャンプ瑞慶覧 (534.2ha)

泡瀬通信施設 (55.2ha)

※面積は、米軍施設面積 R7.1.1現在